

アンケート 住んでみて感じた日本の魅力

「日本のソフトパワー」を構成する日本や日本人の強みおよび魅力等について、商社、外資企業および留学生センター・会館を通じて、国内在住の外国人の方々にアンケートを依頼し、お寄せいただいた計68名/21カ国の回答をとりまとめた。

ご協力いただきました皆さまに御礼申し上げます。

ここでは、ビジネスマン（計29名）と学生等（主婦、研究員、その他を含む計39名）に分けて分析した。なお、職業欄が無記入の場合には、企業から得た回答はビジネスマンに、留学生センター等からの回答は学生等に区分した。

1. 日本人の特徴

日本人についてどのように感じているかを複数選択式で挙げていただいたところ（図1）、全体的に回答が分散したが、全体では「親切」（4割弱）に続いて「勤勉」（3割）、「慎重」（3割）、「組織的」（2割強）が高かった。ビジネスマンからは「親切」「勤勉」な点が評価される一方で、「慎重」というイメージが強く、また、「あいまい」は、特にビジネスマンで高かった。学生も4割以上が「親切」、続いて「慎重」「勤勉」を挙げている。「正直」は、特に学生で高かった。ビジネスにおいても学業においても勤勉な一方で、ビジネスでは慎重さ、あいまいさ、組織的なことが特徴とされている。また生活面では、親切、正直な印象が持たれている。

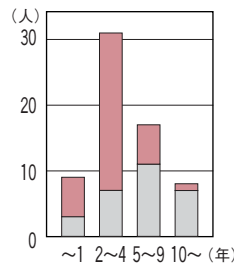
2. 日本の魅力

母国における日本の典型的なイメージを自由記述式で挙げていただいたところ、「よく働く」「勤勉」が多く、また「努力」「まじめ」や「組織的」「協調的」等が挙げられた。「近代的」「現代的」「先進的」や「成長」「繁栄」「発展」「急進」「工業化」等に関して、これらを象徴する「SONY」「自動車産業」「東京」等の固有名詞等も挙げられた。経済大国としての日本のイメージが強いということであろう。

文化に関わるイメージとしては、「近代と伝統が融合」し、「神秘的」「個性的」「エキゾチック」で「異質」と見られている。伝統的な部分では、「富士山」「サムライ」「着物」「芸者」や、「柔道」「相撲」「空手」等の競技、「寿司」「刺身」等の食文化が挙げられた。また、人間性に関わる部分と

（参考）回答者の構成

①在日期間



②年齢構成

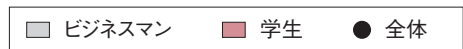
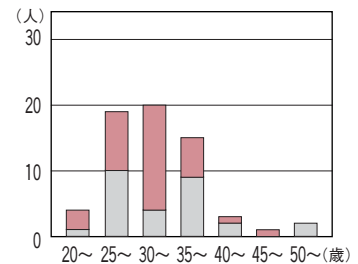


図1 日本人の特徴

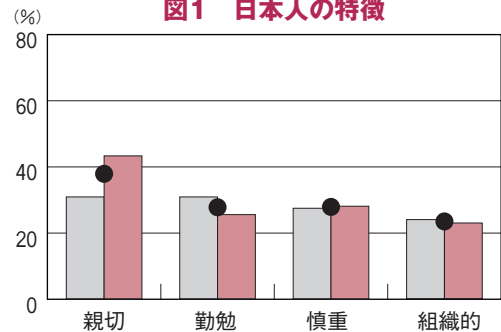


図2 日本の魅力

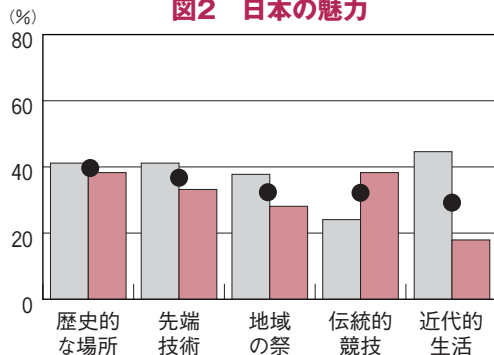
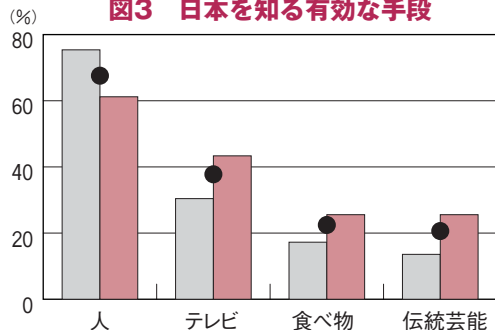


図3 日本を知る有効な手段



して「親切」「友好的」「気持ちのよい」等のイメージが強かった一方、「冷たい」「保守的」「優柔不断」という回答も挙げられた。

このようにさまざまなイメージが持たれているが、なかでも日本の魅力と感じられる点を複数選択式で挙げていただいた(図2)。全体では、「歴史的な場所(神社、城等)」(4割)、「地域の祭」(3割強)、「伝統的競技(相撲、剣道、柔道、空手等)」(3割)とともに、「先端技術」(4割弱)、「近代的生活」(3割)が高かった。「近代的生活」は、特にビジネスマンからは5割弱と高く、さらにビジネスマンの4割が「先端技術」「歴史的な場所」を挙げた。学生等からは特に、「歴史的な場所」「伝統的競技」のほか、ビジネスマンからはあまり高くなかったが「伝統芸能(歌舞伎、華道、茶道等)」が高く、一方で「アニメ」も挙げられた。ビジネスマンを中心に先進国としての日本に魅力を感じている一方で、伝統的な日本や、新しい文化(アニメ等)の魅力など、イメージが多様であるように、魅力も多様と考えられている。

また、自由記述式で、好きな日本語があれば記入していただいたところ7割弱から回答があった(なお、回答は漢字、仮名、もしくはローマ字による記述であった)。複数から挙げられたのは「大丈夫」「素晴らしい」「すごい」「えらい」等の褒め言葉で、そのほか「平和」「初心」等も万国共通の概念であり、好まれている言葉なのであろう。一方で、「さくら」「小春日」「古里」等は、そのような日本の風景が好まれていると考えられる。また、先の設問で、日本人の勤勉、まじめなイメージが挙げられたが、好きな日本語においても「一生懸命」「努力」「がんばる」「粘り強さ」等や、「人間関係」「改善」等の言葉も挙げられた。日本固有の概念に関するものとしては、「一期一会」「わび・さび」「^{はかな}い」「和」など日本の精神に関わる言葉が挙げられた。また、「難しい」(暗に賛成しないことをほのめかす)、「ちょっと」「どうも」(共に使われる場によって多様な意味を持つ)等のあいまいな意味を持つ言葉や、「とりあえず」「しょうがない」「まあ、なんとかなる」などは、荒立てず、丸く収めようとするときに、日本人がよく使う言葉である。また、「かわいい」「すげえ」「マジで？」など現代の若者言葉も挙げられた。好まれている日本語は、日本および日本人の魅力とも関わりと考えられる。

3. 日本の理解促進

これまでは、日本に住む外国人から見た日本および日本人の印象等についてまとめてきた。では、海外の外国人には、今後どのように日本をアピールしていったらよいのか。

日本を知る最も有効な手段を複数選択式で挙げていただいたところ(図3)、ビジネスマン、学生等とも、とりわけ「人」が全体の7割弱と高かった。さらに「テレビ」(4割弱)も高かったが、「ネットワーク」は(相対的に)意外と低かった。学生等では特に、「食べ物」「伝統芸能」も高かった。

図4 母国の日本語学習環境

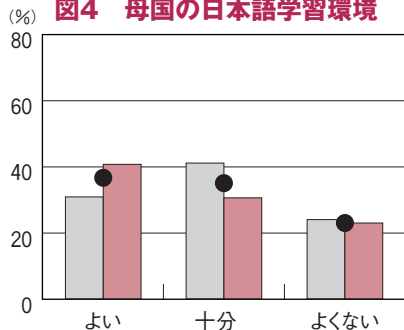
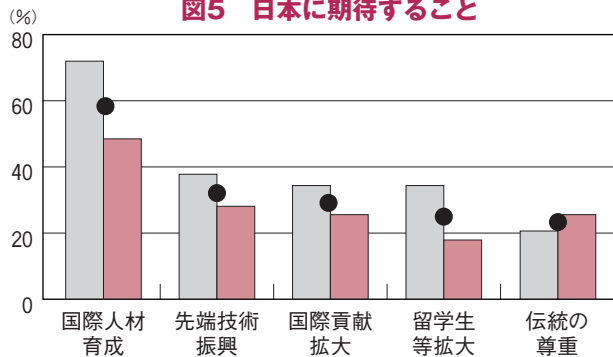


図5 日本に期待すること



日本を知るうえで、日本固有の概念をはじめとして、日本語の理解は重要なカギとなると考えられる。サンプル数は少ないが、母国の学習環境（図4）は、「よい」もしくは「十分」が、回答者計21カ国中14カ国となった（中国、韓国、タイ、マレーシア、インドネシア、豪州、ロシア、英国、フランス、ドイツ、イタリア、米国、カナダ、メキシコ）。一方で、「悪い」はアイルランド、モンゴル、トルコ、シリア、アフガニスタン、ポーランド、スイスのほか、「よい」もしくは「十分」との回答を得た中国、タイ、マレーシア、豪州、フランス、米国からも挙げられ、評価が分かれた。

「よい」もしくは「十分」な理由として、日本語学校のほか高校や大学等における日本語コースや日本人教師、日本語の教材や出版物の多いこと等が挙げられた。また日本人が（現地に）比較的多く住んでいることから話す機会に恵まれていることや、アニメなど日本語の番組と触れる機会に恵まれていることが挙げられた。ただし、都市部ではよい、という限定付きの回答も見られた。一方で「悪い」理由は、学習する場がないことのほか、学習する場があっても教材や辞書、出版物が少ないこと、話す機会の少ないこと等が挙げられた。

日本から地理的距離が遠く、来日者も少ない国ではやはり、日本語の学習環境も整っていないようだが、一方で観光やビジネスなど日本を訪問される人々の多い国からの評価が分かれるのは、地域等によって学習環境にバラつきがあるということであろう。先の設問で日本を理解する有効な手段として「人」との交流や、アニメなど「テレビ」番組が挙げられたが、日本および日本人に触れる機会は、日本語学習の環境も左右するであろう。

4. 日本への期待

今後の日本へ期待することを複数選択式で挙げていただいたところ（図5）、全体の6割が「国際的な考え方を持った人材の育成」を挙げ、特にビジネスマンの7割超が指摘している。先の設問で、日本を理解するにあたっては人との交流が重要とされたが、人の交流にあたって、このような国際人材の育成の一方で、「留学生/移民の受け入れ拡大」（3割弱）等も求められている。また「先端技術の振興」（約3割）や「国際貢献の拡大」（3割）等への期待も高い。また、日本の魅力の一つである「伝統の尊重」（2割強）も指摘されている。

日本的な考え方、精神構造は外国人からは理解されにくいと言われるが、一方で日本らしいと好まれている部分もある。また、現代的な部分と伝統的な部分が融合していることも日本の特異性として好まれている部分もある。これらは、日本としても大切にしつつアピールしていかなければならない。

なぜ日本においては、ヒトの交流が進まないのか。カネ（投資）が入ってこないのか。その対応を考えるときに、まずは自らの魅力を客観的に認識することが必要であろう。（広報グループ 大西京子）